

# 令和5年度 園の教育計画における職員の自己評価集計結果

2024.2.15

みつづかこども園

\*本年度の自己評価の集計結果です。この結果をもとに令和6年度の経営計画を立案していきます。年度当初の目標としては、それぞれ平均値3点を目指しました。この3点というのが高かったのかもしれませんが、達成したのは②③の2項目でした。一方、評価が特に辛かったのは④⑧⑩でした。達成できなかった項目を中心に、目標や方途・評価の目標値等、そして園の経営計画を検討していきたいと思ひます。

4：よくできた      3：できた      2：あまりできなかった      1：できなかった

	評価項目	自己評価（○評価理由、●改善点、⇒次年度への課題）	評価 (平均)
1	たくましく明るい子供の育ちを促す遊びを取り入れたか	<p>○保育室では、平均台を自由に登り降りするなど、子どもたちのやりたい気持ちや発達を促すことができた。</p> <p>○体（運動面）の育ちは環境をうまく活用しきれていなかった。（安全や友達同士のトラブルばかりを気にしてしまった。）</p> <p>○担当児をもつ先生方をお願いしてしまうことが多かった。○発達に合わせて、中庭の遊びから園庭の遊びに変えた。</p> <p>○戸外で傾斜を登り降りしたり、室内ではウレタンの積み木でサーキットをつくったりした。</p> <p>○平均台やカラーボックスの台など、子どもの活動の様子を見て、組み直したりした。</p> <p>○運動遊びをする中で個々の発達に合った関わり、補助をするように心がけてきた。</p> <p>○サーキットなどバランス感覚を養う遊びはできたが、全員が安全にやると時間がかかり待ち時間が多くなり、積み木など他の遊びをやりたがる子が多かった。</p> <p>○サーキットなどでは、発達に合わせて組み立てを工夫していった。</p> <p>○今できる動作は何かを観察し多く経験させ、次につながるように取り入れた。</p> <p>○指先を使える遊びを用意したり、歩こうとする気持ちが芽生えるように広いスペースを作るなどした。</p> <p>○室内では、ホールにてアスレチックやクライミングなど体を動かす機会を多く取り入れたが、戸外遊びでは、自由に遊んでいたのでもいけなかった。</p> <p>○限られた空間を最大限生かし、子どもたちが自分の思いを大切に活動する中で自然に体の育ちを促すようにしていた。</p> <p>○クラスの先生と話し合いながら、子どもたちの発達に合わせて、部屋や小ホールでの運動遊びを作っていました。</p> <p>○アスレチックで遊ぶ姿を見ながら、少しずつ高度な組み合わせに変えたり、戸外遊びでは三輪車のこぎ方を伝えたり鬼ごっこを一緒にしながら体を使う遊びを取り入れたりした。</p> <p>○クラスで話し合い、発達に合わせた玩具を用意することができた。○豆袋を用意したり、足形や手形を床に貼り、楽しめるようにしたこと。</p> <p>○部屋の中にカラーボックスや平均台を取り入れ、体を動かせる環境をつくることができた。○自分自身に取り入れていくことがなかった。</p> <p>○子どもたちがやりたいという遊びを中心に行ったが、体の育ちを促す遊びを提示できたかを問われると不十分だったように感じる。</p> <p>○毎日体操や季節に合わせた運動（夏は水遊び、秋は運動会ウィーク、冬は縄跳びなど）を保育に取り入れた。</p> <p>○歩き始めそうな子には手を引いて少しずつ自信がもてるようにしたり、活発に動けるようになってきたりした。子どもたちに対しては、小ホールを利用して、登ったり滑ったりくぐったりといろいろな動きが経験できるように心がけた。</p> <p>○担任の先生方が常に考えてくださっていたため、自分で考えるという点では、できていなかった。</p> <p>○運動会時にはかけっこ、劇遊びでケンパをする場面があるのでケンパ、また、大縄跳びなど一緒に楽しんでいった。</p> <p>●外部講師を要請し、楽しみながら体の育ちを促す遊びをさらに進めていきたい。</p> <p>●遊びがパターン化しているので、ジャンプすることを取り入れたりしたい。●スキップなど体の育ちを促す遊びを取り入れるようにする。</p> <p>●安全面への対応をもう少し早めにしておくとよかった。●ボール遊び、ジャンボマット、鉄棒などあるとよい。</p> <p>●保育士間で園庭の環境について話し合う。●具体的な体の育ちの計画を職員間で話し合う。</p> <p>●すべての月齢の子も楽しめる遊びを考えることが難しかったです。●同じ遊びであまり変化がなかった。</p> <p>●一人一人の興味のある遊びに注目して、玩具を取り入れたり、環境を整えたりするべきだった。</p>	2.6
		⇒具体的な体の育ちに関わる計画を立てたい。その上で走・跳・投を含む遊びを子どもたちに無理のない形で積極的に取り入れたい。子どもたちの活動に無理がない範囲でActive Child Programの指導者など外部講師を呼んでもよい。その場合は、体の育ちに関わる計画の指導を受けられるとよい。	

が②  
身年  
に齡  
付に  
く合  
環わ  
境せ  
やた  
援衣  
助服  
方の  
法着  
を脱  
学や  
年食  
で事  
話し  
排泄  
いに  
実関  
施わ  
する  
たマ  
ナー  
や姿  
勢

○個々にどこまで身に付いているか把握し、丁寧に関わるように心がけたが、フリーだったので継続的に関わるができなかった。  
○保育教諭同士がこまめに報告し合うことで、入らせていただいたばかりの私でもクラスの援助方法を理解し子どもたちと関わることができました。  
○園服の畳み方の指導方法、オムツが取れていない子の援助方法。○成長を共有し、それぞれのペースに合わせて援助することができた。  
○クラスで子どもたちの様子を話し合ったり、その都度伝え合ったりして、環境や援助を統一して関わられた。  
○前年度から担当制により、個々に手厚い指導がされていたため、衣服や排泄などはほとんどの子がスムーズにできた。座る姿勢（給食など）が悪く、引き続き指導していく。  
○園服の着脱では、子ども一人一人に丁寧に園服の畳み方を伝えていった。（畳み方を統一し、保育教諭で共有した。）  
○月齢や子どもの様子を見ながら、来年度までにできるようになることをその都度話し合った。  
○個々の発達段階を見て、ズボンははく、スプーンを使うなどを始めるタイミングをそれぞれの保育教諭が理解していて自然に取り入れていくことができた。個別計画について共通理解をもってできていた。  
○保育教諭間で○○ができていないからと伝え合い、注意深くやり方を知らせたり見守ったりした。保護者への協力の呼びかけをもう少しすればよかった。  
○それぞれのクラスで試行錯誤されている。  
○子どもの月齢に合わせて、ズボンを自分で履けるように援助したり、給食を自分で食べられるように援助したりしていきました。  
○具体的な時期や子どもへの伝え方を共有し、実施した。○子どもの様子を見ながら、声掛けし、身に付くように話すことはあった。  
○各担当で、今子どもたちはどのようなことができず、どのようなことができるのかを伝え合い、次の月までに、これができるように支援していこう、3月までにここまでできるようにもっていこうと、日々話し合っている。  
○食事の援助などについて話し合い、クラス内で統一していった。○一人一人に合わせた援助の仕方を考え、実施していった。  
○特に食事のマナーについては、一年間子どもたちの成長に合わせて、正しい姿勢や箸の持ち方を伝えてきました。  
○生活面においてのマナー等は意見交換したり、援助方法を話し合ったりしていった。  
○水遊び、手洗い、食事、着脱など、どう進めていくか、一つ一つクラス間で確認しながら進めていくことができた。  
○話し合いをする時間を取るのには保育中は厳しい面もあったが、クラスの先生方が細やかに対応してくださった。  
○4月当初から食事のマナーや姿勢については個別に声を掛けていった。着替えはできて園服が着られない子が見られたので援助していった。  
●衣服の着脱は廊下なので狭い。もっと広いスペースで指導できるとよい。  
●園として発達段階を踏まえて揃えるべきところが明確になるとよい。  
●個人差に対する援助方法を細かに伝えられるとよかった。  
●保護者と連絡を密にして進める。  
●時間に追われ、丁寧に援助できなかったときもある。●事前に話し合うようにする。  
●子どもへの伝え方で、写真など理解しやすい工夫をすべきだった。  
●それぞれのマナーについてはその都度子どもたちに声を掛けるようにはしたが、よりよい援助方法をクラスで話し合う機会がなかったので話し合って行えるとよかった。  
●話し合うことはなかったが、その都度、個々に合わせて着脱やマナー、姿勢を共有していったので、その場その場の対応ではなく、事前に共有して進めていけるとよかった。

⇒園として発達段階を踏まえて着脱や食事・排泄のマナーや姿勢について目指す姿を明示し、きめ細かな保育ができるとよい。そのための支援の手立てを各クラスで確認し合いたい。

2	おもいやりのある子 た③ か子 ども の思 いを 表情 や仕 草か ら読 み取 り、 伝え 返す こと がで き	<p>○おまごとは、子どもの「どうぞ」と伝えてくれることに対して嬉しい気持ちや「おいしかった。ありがとう。」と伝えると、その子も嬉しそうにする姿や表情でもその子に寄り添い伝えることができました。○子どもの思いを保育教諭に伝えられるようにゆったりとした雰囲気づくりに努めた。</p> <p>○挨拶をして顔の表情を見て「どうしたの？」と声を掛けるようにした。○まだ言葉が出ない月齢だったので、代弁を意識した。</p> <p>○以前受け持ったことがある子は伝えたいことが何とか分かるが、受け持ったことがない子は理解することができなかった。</p> <p>○言葉にできない年齢であるので、こちらが代弁し、伝えていくことで、言葉の発達や関わり方、全体の成長につながることもできた。</p> <p>○普段から子どもの様子に気を配り、いつもとは違うときには深く関わるように努めてきた。○子どもと話すときは目を見て話すように心がけていた。</p> <p>○自分で伝えることができない子には、代弁し、少しでも言えたら大いに褒め、自信がもてるようにしていった。言葉も増えていったが、気分にも左右される子も多く、頭では分かっている、言えない子が多いこともある。</p> <p>○自分で気持ちを伝えられない子に対してはゆっくりと関わって話し、思いを汲み取ろうとした。</p> <p>○言葉の理解がまだ難しい年齢ではあるが、言葉で伝えることを心掛けるようにした。</p> <p>○子どもの動作や表情で心情や要求を受け止めて、不安で泣くときはしっかりと抱いて安心させるように努めた。</p> <p>○子どもの気持ちに寄り添い保育してきた。それゆえ、甘い部分もたくさんあったと思う。</p> <p>○子どもとの人間関係が醸成されるにつれて、思いを読み取ったり伝え返すことができたりするようになってきた。</p> <p>○子どもの思いや欲求を読み取り伝え返そうとはしているが、子どもが何を求めているか分からないときもあるのでクラスの先生に助けを求めることがあります。</p> <p>○子どもの目線に立てるよう表情などを見ながら「○○だったんだね」と気持ちを受け止めるように心がけた。</p> <p>○言葉で伝え合うことが難しい分、仕草や表情から思いを読み取るよう努めていくことができた。</p> <p>○子どもの表情や仕草から気持ちを共感したり、うまく話せない子には、言葉で代弁しながらその子の気持ちに寄り添えるようにしたりしていった。</p> <p>○1歳児は特に表情や仕草から思いを読み取らなければいけないことが多いが、その子が今どうしたいのか何を訴えているのかよく見て思いを汲み取れた。</p> <p>○子どもたちから思いを引き出せるよう、頭ごなしに怒ったりせず、どうしてそうなったか？やどうしたらいいと思うか？を子どもたちに聞き、聞いた上で「こうする」といいと思うよ」「ここはだめだったよね」と伝えるよう努めた。</p> <p>○30名全員と言われると自信がありませんが、できる限り子どもの様子から気持ちを読み取り、寄り添うよう心掛けました。</p> <p>○表情や仕草から読み取ることは難しかったが、読み取ろうと努力し、それに応えようと必死になっていました。一人一人と目を合わせて笑顔で話しかけ、思いを受け止めることを心掛けてきた。○トラブル、遊べない子、生活面等、様々な面で状況に合わせて、どうしたいかどうしてほしいかその子の気持ちを察して代弁し、理解していくことで相槌したり、お話してくれることへつなげていった。</p> <p>○子どもたちが伝えようとしているときには聞き返したり、見守ったりしながら感じようとした。</p> <p>○子どもの言動の裏に隠れた「思い」を常に考えるようにしていた。</p> <p>○4歳児ということで、自分の思いを言葉で表現できるように促していった。</p> <p>●同じクラスの職員だけでなく、全職員で特に配慮を要すると思われる子どもたちの情報交流の機会があるとよい。その中で対応の仕方が徹底でき、新たな発見も生まれると思われる。</p> <p>●その子どもの背景（成育歴や家庭での様子を主の先生から教えてもらう）も把握するとよいかも。</p> <p>●その子の性格などをみながら関わっているが、その子のために自立できるようにしていく。</p> <p>●忙しかったり、慌てたりしていると向き合う時間が少なく、不安にさせてしまったことがある。一人一人と話す時間をつくるようにする。</p> <p>●（感情の）起伏が激しい子に対して寛容な接し方がうまくできないときもあり、理解してあげられる関係をつくっていきたい。</p>	3
⇒配慮を要する子だけでなく、全ての子に対して（特に自分の思いを伝えることが苦手な子に対して）意図的に関わるよう努力する。配慮を要する子については、全職員で情報交換の機会をもつことで、足並みを揃えた関わり方ができるようにしたい。			

④ 野菜や花、虫等の生き物の育成に適した関わりができたか

○未満児のため、育成する機会がなかった。○野菜や花にふれる環境が少なかった。○できませんでした。  
○なかなか行うことができなかつたため、関わる機会ができたらいいです。  
○戸外に出る機会が中庭だったので、お部屋の中でお写真などを見ることしかできなかった。  
○季節の花を写真で貼る。歌などを入れていった。○育成に関わる機会が少なかった。  
○花壇の花はちぎらず、クローバーなどは採って花束にしたりしてもよいことを伝えた。アマガエルなど捕まえ、強い力で握ることもあったため、優しく触るよう伝えた。気絶していたが、しばらくすると逃げていったため、かわいそうだったことを伝えた。  
○玄関の掲示物で季節折々の行事や植物などが学べるようになっている。  
○クラスで生き物などを育成はしなかつたが、園庭の草、木、花などは、子どもたちと一緒に生長を見守ることができた。  
○あまり触れ合う機会を作れなかつたが、周辺散歩の際に道端に咲いている花と一緒に観察するようにした。  
○ひまわりや玉ねぎの栽培をしたが、声掛けも少なく、あまり関心を示さなかつた。虫探しはしたが、飼育はしていない。  
○部屋に花を飾ったり、動物の写真を貼ったりして、部屋に取り入れるようにしています。  
○中庭や園庭にいる虫を観察したり、生き物の絵本を部屋に置くことが多かつた。  
○戸外遊びを通して、咲いている草花と一緒に摘んで遊んだり育つた花や木の実を見つけ何の木なのかを伝えたり一緒に虫探しをして季節の虫を観察して名前を知らせたりしていった。  
○絵本を通して、野菜・花・虫などの名前やどこで生息しているか伝えられた。  
○野菜作りや田植えを通し、子どもたちが食に興味をもてるよう取り組んだ。  
○夏野菜の栽培やカブトムシ・メダカなどの育成を行いました。バケツ稲づくりにも初めて挑戦しました。  
○4・5歳児が育てていた野菜や花を身近に見て観察したり、水やりを手伝ったりと触れることができた。  
○自分で育てるということではできなかつたが、図鑑と一緒に見て楽しめるよう心掛けることはできた。  
○育成する機会があまりなかつた。野菜を植えたり、その水やりと一緒にしたり観察をしていった。  
●実物を保育室で触れられる機会があるといいなと思った。(野菜、果物、花、虫) ●クラスでの飼育や自然への掲示物を増やす。  
●飼育・栽培活動がさらに進められるとよいが、現状のものでも水やりをしたり観察したりするような活動が自然にできるとよい。園庭や園外に出たときには、花が咲いたり実をつけたりしたような植物について気を留めるようにしたい。  
●野菜や虫、生き物への育成に対する関わりが少なかつた。絵本や手遊びなどでも取り入れる。  
●年齢を理由に室内遊びがほとんどであった。担当制を生かし、少人数ずつ散歩や園庭へ出て自然に触れる時間を作ることはできたと思う。(3月に取り入れたい)  
●自分自身も基礎知識がなくてその場でうまく説明できなかつたことがある。生き物について学ぶ。  
●外遊びに出たとき、子どもたちと花や生き物に触れたり、図鑑などでも関わりをもてるようにしたりする。  
●野菜や花、虫などの育成に関わっていけるようにしていく。  
●実物を見せることが難しく、あまり自然に触れさせてあげることができなかつた。  
●散歩に出かけたときには、花や蝶などを知らせることはしたが、外へ出る機会が少なく、育成に適した関わりはできなかつた。  
●5歳児クラスの廊下にメダカの水槽があるが、ほとんど関わりができてなかつた。年長児が餌やりをする姿を見せたり、一緒に行ったりできるまで、生き物を大切に  
する気持ちが養われるのでそうした機会ができるとよい。

⇒学年によっては室内で育成できるものを考えられるとよい。園庭・園外でも意識的に動植物への関心が高まるような声掛けをしたり、活動を仕組んだりしていく。こうした中で命の大切さや食育につながる教育・保育を進めたい。

<p>3 芯のある子</p> <p>会⑤ を一人一人のよさが伝わるよう認めたり、互いに認め合う機</p>	<p>○良いところを見つけたときは、その様子を伝えたり見せたりする機会を作った。</p> <p>○お片づけを頑張っている子に対して、よさを他の子にも伝えることでお互いに日常生活を高めていくことができているため、頑張りを今後も伝えていきたいです。</p> <p>○できたことには大げさなく褒めた。友達とのトラブルでは、お互いの気持ちを代弁してお互いの思い、感情が伝わるようにした。</p> <p>○クラスの先生と成長を共有し、一緒に喜び合うことができた。○できなかったと思います。</p> <p>○できたときは、大いに褒めてクラスの保育教諭と共に共有して認めていった。頑張っている姿も認め、できるまでの過程も互いに認め合い、共有していった。</p> <p>○けんかの際、子どもたちだけでは解決できないときは、一人一人話を聞いて話し合った。</p> <p>○多動が見られる子などよいところを見つけるようにし、言葉やスキンシップを取りながら認めていった。</p> <p>○製作など素晴らしい作品や頑張った作品を飾ったり、周りの子に紹介したりした。</p> <p>○できたことや頑張ったことを大いに褒め、子どもたちが”褒めてくれた”と思えるような関わり方を心掛けた。しかし、そのやりとりが個々で終わってしまうことが多かった。</p> <p>○（評価項目とはずれているが）小さな「できた」を全保育教諭でほめる。それが他の子にも「やってみる」「できた」につながっていった。</p> <p>○いいところは、その場で褒めたり、みんなの前で発表したり、保育教諭間で伝え合ったりした。</p> <p>○活動のよさについて職員が認める姿がある。子どもたちの中には仲間のよさに気付く姿もある。</p> <p>○子どもたちのよいところはその都度、みんなの前で褒めていきました。子どもたちに伝わるよう、頭をなでたり抱きしめたりして褒めるよう心がけました。</p> <p>○午前のおやつ時間に、頑張っていることや楽しかったことを連絡帳の内容をきっかけに話をするようにしたから。</p> <p>○遊びの中で日々工夫して遊び、面白い発見があったり、友達を思いやる姿が見られたり、活動の中で頑張る姿が見られ、いろいろな場面で、多くのよさがあり、褒めたり認め合ったりしながら過ごしている。</p> <p>○子どものよい姿は、クラス内で共有し認めていくことができた。</p> <p>○「○○ちゃんすごいね！」と積極的に褒めていき、他の子も頑張ろうと思えるような声掛けができた。</p> <p>○よいところを認めるよりも、注意することの方が多かったように感じる。もっと子どもたちのよいところを認め、みんなの前で褒める機会を作ることで子どもたちの心の成長につながれたと感じる。</p> <p>○子どもたちの前で、個々の頑張っている姿を褒めたり、子どもたちには友達の駄目なところよりよいところを伝えに来るように話したりした。</p> <p>○できるようになったことに対しては十分に褒め、できたことを一緒に喜び認めていった。</p> <p>○同じ空間で遊ぶ中で個性を見つけ言葉にして伝えていくことで自信や満足感を感じられるようにし、互いに影響し合えるようにしていった。</p> <p>○できるようになったとき、頑張っているときなど、その都度声を掛け、褒めたり認めたりしていった。</p> <p>●活動の区切りのタイミングで職員が認めるのはもちろんだが、子ども同士でよさを認め合うような活動を増やしたい。●もっと意識できるとよかった。</p> <p>●遊びの中で認めたり認め合ったりすることを増やしていく。●いいなと感じた姿は口に出し、子どもたちの前で話すようにする。</p> <p>●振り返りの時間を設けたりして、個々のよさを認め合ったり褒めたりしていくことで喜びや自信につなげていくようにできるとよい。</p> <p>●場面によっては褒める子が同じになってしまっていたと感じる。全員を認め、自信をもてるように関わっていきたい。●今後も子どもたちとよい所探しをする。</p>	<p>2.84</p>
	<p>⇒褒める、認めることの意義や効果を意識し、多少大げさになってもよいので、少しでも多くの子や職員、保護者に伝わるように、より一層褒める、認める機会を増やしていく。そのために、子どもたちとより一層きめ細かく関わり多面的にとらえるようにする。特定の子に職員の関心や指導が偏らないよう、記録を生かすなどしてどの子のよさも認められるようにしたり子ども同士認め合う機会を意図的に設定したりする。</p>	

う⑥  
と相手  
したの  
り気持  
するち  
姿を分  
認かろ  
め、う  
励まし  
たり、  
広めよ  
たりか  
よい遊  
びや生  
活をし  
よ

○子どもをよく観察することで相手に玩具を貸したり、一緒に遊んだり、泣いていると心配したりする姿が見え、認めていくようにした。  
○新しい遊びを見つけた子の姿を他の子にも伝えるなど広めていくことができました。  
○遊びの中で玩具の場所など流れを意識したりすることができた。  
○年齢的に相手の気持ちを理解し汲み取ることは難しいが、保育教諭が気持ちを代弁し、表現は大きなくらいに褒めたり悲しんだりすることで子どもの心に響くようにした。  
○友達の気持ちを代弁して伝えたり、お互いの気持ちを伝え合ったりする。遊びが見つけれたら、止めるのではなく、発展できることはないか？の視点で見て、広めていった。  
○常に子どもを褒める保育を心掛けている。  
○トラブルがあったときは、お互いの話を聞き、それぞれの気持ちを伝えていった。  
○なるべく表情や行動から気持ちを読み取り代弁するようにした。○子どもたちの望ましい姿を評価する職員の姿がある。  
○自分が見つけたときはその場で褒めたり、クラス以外の子のやっていることにクラスの子に気付かせ真似できるようにしたりした。○できなかったと思います。  
○相手の嫌がることを分らずやってしまうことが多いので、相手が嫌がっているということをその都度伝えるようにしました。自分でやろうとしている姿を見ると、認め励ますようにしました。  
○トラブルが起きたときに言葉が出る子どもには話を聞くようにしたり、気持ちを代弁して知らせるようにしたりしたため。  
○友達の気持ちを考えようとしたときには認めた。○子どもの気持ちを理解することに努めた。  
○遊びの中で相手を思い譲る姿や、まだ使いたいから待ってほしい姿など、様々な気持ちを受け止め代弁したり遊べない子が興味をもてる場所を考えたりして、さりげなく遊びを誘導し、遊びが広がるよう一緒に遊びながら考えていった。  
○「○○くん嫌だって言ってるよ」など相手の気持ちを代弁し、お互いの気持ちに寄り添えるよう心掛けた。  
○子どもたちの会話の中で子どもたちが今何に興味をもっているかを探り、どんな玩具や遊びを提供したらよいかを考えることができた。主体的に手伝いをしようとする子を十分に褒めることで褒めてほしいという他児が手伝いをする姿が見られた。  
○相手の気持ちを理解できない子には気持ちを代弁して伝えたり、遊びが持続していくように褒めて励ましたりするなどの援助を行った。  
○嬉しいこと、嫌なことを一緒に考え、お友達にもそういった思いがあることを繰り返し伝えていく中で、例えば貸し借りのルールなどできたときは「よく言えたね」と必ず褒めていくよう努めていくことでやり取りができるようになっていった。  
○自分の思いを言葉にして伝えられるようになってきているが、言葉が強かったり、自分の思いを押し通そうとしたりする姿が見られるため仲立ちをしていった。  
○褒めて認める声掛けや言葉選びを意識することができた。  
○次の子のためにスリッパは揃えよう、おもちゃは片付けてから次のコーナーに行こうといった小さなことから広めていった。  
●望ましい姿を当り前のこととせず大きめに認め、励まし、広めることをさらに意図的に進めていきたい。  
●帰りの会で発表できるとよいのかと思った。  
●認めたり励ましたりする声掛けが少なかった。意識するようにする。  
●広められるよう子どもたちの前で話すようにする。  
●広めることができなかったため、広げていけるようにする。  
●友達同士のトラブルには、気持ちを代弁することしかできなかったが、トラブルにならないように玩具の数を調整したり、傍に付いたりした。

⇒相手の気持ちを分かろうとしたり、よりよい遊びや生活をしようとしたりする姿をできる限り具体的な姿で子どもたちに伝えることで意識化を図る。これを継続的に行う。些細なことでもできたことがあればそのよさを大きめに認めたり、できなかった場合は注意するより次からどうするとよいのかを一緒に考えたりする。

4	<p>創造豊かな子</p> <p>⑦ 夢中になって遊べる時間や環境を用意したか</p>	<p>○ブロックコーナー、おままごと、パズル、絵本、乗り物コーナーなど、好きな遊びを好きなだけできる環境を用意することができました。</p> <p>○保育室の環境構成を職員全体で検討することで、劇的に子どもたちが遊び込める環境になった。ごっこ遊びの幅が広がったように思う。</p> <p>○先生の配置に余裕があるときは、一緒に遊んだり、発展できるような声掛けができた。</p> <p>○卓上コーナーでは、他の子に邪魔をされずに遊べる環境を整えたり、集中してつくっている子のそばに保育教諭がついて見守り、達成感を味わえるようにした。</p> <p>○夢中になって遊ぶ時間を取ることができなかった。○自分自身で環境設定をすることはありません。</p> <p>○遊びの途中で片付けの時間になったとき、つくりかけてあったり、遊びが盛り上がりすぎたりしたときなどは、またあとでできるように「こわさないで」の表示をし、他の子の作品なども大切にするようにした。</p> <p>○遊んでいる様子を見て、その都度必要なものを用意し、夢中になって遊べるように心がけた。○探索活動からごっこ遊びや絵本、保育教諭とのふれあい遊びと成長に合わせて用意した。○前半は、保育教諭と一緒にないと発展しづらかったが、廃材などで製作したり、カードゲームなど自分たちで楽しめる子が多くなった。</p> <p>○子どもたちが遊び込めるよう今、子どもたちが好きな玩具を見極め、増やしていけるようにしました。</p> <p>○コーナーごとに集中できるようにスペースをそれぞれ作った。○遊びに対して集中し、継続できる姿が増えてきた。</p> <p>○早朝・延長時間に、子どもたちと関わる中で、子どもたちが、何か遊びのヒントを与えてくれたときは見逃さず、各担任に伝えるようにし、その子の興味関心を探る各担任のヒント（参考）になるように心がけている。伝えたことにより、担任が普段気付けなかった子どもの姿を知り、保育や遊びの発展につながっていったらと思っている。もし、すでに担任が知り得ている内容であるときには、共感し、子どもたちの成長を喜び合えるようにしている。子どもたちを通して、他の先生、職員との信頼関係をより深めていきたい。</p> <p>○子どもたちが遊びを転々としてしまうことが多かった。○保育教諭も一緒になって思い切り遊ぶことができた。</p> <p>○園の特徴である主体性保育を常に意識し、子どもたちが遊び込める環境を提供してきた。ただ、もっとやりたいことはあったが、出し切ることができなかった。</p> <p>○集中できる時間はまだ短い、興味をもっている玩具をいつでも手に取れるようにしたり、遊べる場所を確保したりした。</p> <p>○好きな遊びが十分にできる時間が設けられているため、やってみたい遊びやつくってみたいものができたときの満足感や達成感につながっていくことができていた。</p> <p>○子どもたちの好きな遊びを把握し、製作コーナーなど思い切り遊べるよう整えていった。○担任の先生に甘えてしまっていました。</p> <p>○コーナーの改善や遊びの提案をして、一緒に遊ぶことで、いろいろな楽しい遊びを知らせることができた。</p> <p>●保育教諭同士で（夢中になって遊ぶ）時間を確保できるように話し合いをする。</p> <p>●遊び込めない子や遊びがなかなか見つけられない子がいた。子どもたちが何に夢中になっているかを見定め、玩具の入れ替えを行うとよかった。</p> <p>●保育の指導をしていただいた先生の保育観が十分理解できていないので難しい。●どの玩具が夢中になれるか、探し出すことが難しかったです。</p> <p>●走ったり遊びが転々としてしまう子どもに対して、適切な遊びを提供する。</p> <p>●子どもの様子、興味を観察し、環境に取り入れるようにする。●遊びのレパトリーをもっと増やしていきたい。</p> <p>●さらにダイナミックな活動がしてみたい。そのための提案や環境構成の吟味をしなければと思う。</p> <p>●時間の中で、遊びの他にも食事や排泄や活動があり、もう少し長く遊ばせてあげたい部分も多くあった。玩具の入れ替えを行い、遊びに飽きてしまわないようにしたが、もっとできる部分もあった。</p> <p>●もっと一緒になって遊び、夢中になって遊べる環境を整えていく。</p> <p>●3歳児の中で集中して遊べない子、好きな遊びがみつけられない子はすぐに飽きてしまい、走り回ったりしてしまう姿も多々あり、そういった子への環境づくりを考えていく、</p> <p>⇒遊びが連続していき発展的に広がっていくことを意図して、より一層子どもの目線に立った環境設定になるよう改善し続けたり、子どもの意図や思い付きをとらえるような声掛けを工夫したりしていく。</p>	2.75
---	---	--	------

<p>よ⑧ う多 に様 環な 境素 を材 整や え用 た具 か に 触 れ な が ら イ メ ー ジ や ア イ デ ア が 生 ま れ る</p>	<p>○子どもが自発的に工夫して遊び、それが発展して遊べる環境に努めた。  ○私自身はまだそこまで環境を整えることはできませんでしたが、赤ちゃんの人形の服を季節によって変えることや体型によって（成長）カバンの大きさを変えて遊ぶなど整えられた環境がすごいと思った。  ○保育室を半分は机コーナー、遊びコーナーに分けることにより、机に向かう遊び（パズル、ぬり絵、廃材遊び）に集中して取り組む姿が見られた。  ○他の先生にお願いしてしまうことが多かった。○水遊びや落ち葉、雪など季節の感じられる物に触れたりした。  ○玄関飾りはなるべくいろいろな素材を用意し、触れ、楽しさを味わえるようにはした。  ○保育教諭も一緒に遊び、子どもの遊びからこんなものがあるとよいなどのヒントを得たりし、つくったり、準備したり、また、つくる様子を見せ、一緒につくり、製作の方法や技術の向上につながるよう努めた。  ○色とりどりの紙テープやスズランテープを準備するなど、今までに使うことがなかった材料を整えた。  ○口に入れてしまうことを考え、あまり用意できなかった。○自分自身で環境設定をすることはありません。  ○材料をもっといろいろ用意したり、ヒントになる展示物をもっと増やせばよかったと反省する。  ○子どもたちが様々な素材や用具に触れられるよう多くの玩具を用意しました。  ○発達に合わせて、ハサミやノリ、粘土など指先を使う用具を用意した。  ○まだ自分の中の知識が少なく、クラスの保育教諭のアドバイスをもとに環境を整えた。  ○身近な物（新聞やペットボトルなど）を遊びの中に取り入れることができた。  ○木などの素材の特性を生かした玩具に努めて触れるようにされている。  ○多様な素材や用具に触れられるよう素材の提供は行ったものの、具体的にイメージが生まれやすくするよう提供の仕方を工夫する必要があったように感じる。  ○子どもたちの遊びを観察して、その時に合った素材や用具を提供するよう心掛けた。遊びが発展するようなアイデアをさりげなく出すようにした。  ○コーナーごとに十分な玩具は用意されている。○同じ遊びばかりになってしまっていた。○担任の先生に甘えてしまっていました。  ●より一層大胆な製作活動が進められるような環境構成が必要である。  ●いろいろな素材や用具を見つけ、準備していきたい。  ●イメージやアイデアが生まれるところへまでもっていけるように考えていく。  ●素材の違いを楽しめる玩具を用意する。  ●（評価項目とはずれているが）危険である物と多くの素材があっても、触れる機会を減らしてしまった。0歳児の玩具も再検討したい。  ●もっとダイナミックな遊びが必要なのかと感じる。  ●楽しそう、こうしてみようというイメージやアイデアが湧くような素材を用意するようにする。  ●成長を考え、製作コーナーでは、紙とシールから始まり、徐々にクレヨン、ぬり絵、粘土、はさみと加えていき、多様な素材から自由に選択でき遊べるように整えていった。  ●様々な素材について自分自身も触り、子どもたちに提供していく。  ●製作コーナーでは廃材が十分に用意されていないため、つくりたいものがつくれなかったりして我慢せざるを得ないこともあったので準備していきたい。  ●環境を整えるまでに時間がかかったときもあり、すぐできなかったため。子どもたちの声に耳を傾けていきたい。  ●新しいアイデアがなかなか生まれてこなかった。提案すると同じようになってしまう。もっといろいろな種類の素材を提供するとよかった。</p>	<p>2.3</p>
	<p>⇒イメージやアイデアが広がることを意図した素材(一定程度の量や大きさを考慮)や用具を用意する。そのためには、職員自身が無理のない範囲でイメージやアイデアが生まれるような提案をしたり、勘に頼らず子どもたちの思考を聞き取り記録を残していく。腕を組んで監視しているのではなく、目配りはしながら一緒になって遊ぶ姿を示す。用具の正しい使用方法については発達段階や子どもの要求などのタイミングを考え、教えることをためらわないようにする。</p>	



5	運営について ④ 運営機構の役割に従い、自分の業務の遂行に努めたか	<p>○自分の役割は責任をもってすることができた。</p> <p>○自分のやるべきことを行い、そして一番大切な子どもたちとの関わり、業務を考え動くことができました。</p> <p>○主の先生方の補助的な役割という立場で、臨機応変に立ち回るよう努めた。怪我やトラブルがないよう周囲をよく観察して、未然に防ぐように配慮した。</p> <p>○できる限り他の先生のサポートができるように動いた。○できませんでした。</p> <p>○気付けない部分もあったが、自分の業務ができるように意識して遂行できるように努めてきました。</p> <p>○分からないところは質問し、自分の行うべき業務を積極的に行った。</p> <p>○係などの自分の役割に自分のできる限り遂行するよう努めた。（交通安全、園内研など）</p> <p>○役割の親睦会では、毎日の休憩室の準備をほとんどすることがなかった。</p> <p>○自分が受けもつ係の仕事は早めに計画・連絡するなどして責任をもって取り組む努力をした。</p> <p>○以上児リーダー、副主幹という立場だったが、自分のクラスで手いっぱいできなかつた。</p> <p>○先例のないことでも進んで進めようとした。○係の仕事を進んでできなかった。</p> <p>○自分の役割の業務を理解し、遂行することができました。</p> <p>○自分の担当グループの子どもたちの排泄・食事・着脱の援助を行ったため。</p> <p>○自分なりに努力はしているが、まだまだ行き届いていないことやできていないこともある。今後もできる範囲で努力を続けたい。</p> <p>○保育補助として配置された部屋に入り、できるだけクラスの先生たちを助けられるよう子どもたちを見守ったつもりですが、予定変更や行事等のプリントがなく把握していないときがあり、自分からもっと積極的に知っておくべきだったなと思いました。（特に、給食室に入っていると保育の方が分からずになってしまう）</p> <p>○延長玩具・環境では、どのようにしたら落ち着き、遊びが豊かになるのかを日々考え、担当者や周りのクラスの職員間で相談・共有し、配置・玩具の入れ替え・環境整備を今もなお変化させながら遂行しています。</p> <p>○毎日、目の前にある仕事に自分なりに向き合い頑張れたと思う。</p> <p>○自分の係ややるべきことは責任をもって行うことができた。</p> <p>○先輩と後輩とのパイプ役となり、円滑にコミュニケーションが取れるように努めた。</p> <p>○気付かずに周りの先生から教えてもらってからの対応の時もあったが、自分から積極的に参加したり、最後までやり遂げようと自分なりに努力したりした。</p> <p>○自分の役割、業務においては積極的に努めていった。</p> <p>○一生懸命努めようとしてきたが、できていなかったのかもしれないと反省した。○衛生安全に気を付けて努めることができました。</p> <p>○役割を意識しながら少しずつではあるが取り組んでいった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●気付いていない所も多々あり、周りの方に相談したり、教えていただいたりしていく。</li> <li>●同じ役割の先生から行事の準備を始めることの提案を受けて始めました。自分から動いていきたいです。</li> <li>●クラス全体を見て指示をしたり、行動したりする。</li> <li>●日々の保育が精一杯で係の仕事まで手が回らないことがあったため、改善していく。</li> <li>●もっと積極的に動けるようになりたい。</li> <li>●職員の急な欠勤など気付くのが遅れ、ギリギリになってしまうことがあったため。自分だけでなく視野を広げていけるようにする。</li> </ul> <p>⇒入園式の日の午後、打ち合わせを行い、年間の役割分担や計画について検討する。その後は係ごとに仕事のバランスを考えながら早め早めに情報を得るなどして進めるようにする。係ごとではもちろん、全ての職員間のコミュニケーションを大切にします。</p>	2.81
---	--------------------------------------	--	------

述⑩  
べより  
らり  
れよ  
れた  
たい  
か園  
運  
営を  
目指  
した  
観  
点に  
立ち、  
積  
極  
的  
に  
意  
見  
を

○職員会や研修などを通して疑問に思うこともそのままにせず、聞くように努めた。  
○まだ意見を述べられる場には参加できていませんが、今後機会があれば参加したいと思います。  
○以上児の職員間では、話し合いの機会がたくさんありました。パート、正職員関係なく話し合い、意見の交換ができる環境というのはとても素晴らしいと思います。  
○意見を聞くことの方が多かった。  
○意見を伝えたことで、皆さんに嫌な思いをさせてしまいました。  
○園がよい方向に向かっていけるようにどうしていくとよいのか？を常に考えて行動に移すことを意識していました。  
○意見を述べるまではいかなかったが、園の方針を理解し、遂行するよう努めた。  
○自分が思ったことがよいことなのか分からず、意見が言えなかった。  
○保育の相談には誠意をもって対応して自分の知っていることや経験上のよかったことからアドバイスはできた。  
○クラスのことでは意見はできたが、園全体のことはできていなかった。  
○不明な点は不明である旨、話すようにした。  
○自分の役割や係の仕事で、できるだけ意見を言うように心がけてはいましたが、知識がなかったり理解ができていなかったりする点もあり、後日、他の先生に聞いたり助けられたりすることもありました。  
○担当制やクラスの動きや、未満児としての動きや共通理解、また、備品や道具の管理において、気付き、周りに知らせ、話し合いを行ったり、掃除や管理を行ったりすることができた。  
○よりよい園運営という観点では、意見を述べる機会はなかなかなかったように感じる。なかなか難しい。  
○この園に勤めて3年目で、まだ、分からないことも多く、もっと積極的に意見が言えるとよかったと思うことがあった。（行事などで）  
○できていなかった。○一生懸命努めようとしてきたが、できていなかったのかもしれないと反省した。  
○自分からは意見を述べることは難しかったです。  
○あまり述べられていない。  
○見ていることが多く自分からはあまり意見は述べられなかった。  
○よりよい環境になるようにという思いはあるが、積極的に意見を言うことはできなかった。事務経験があまりなく、意見を言えるほどの自信がありません。  
●積極的に意見が述べられるように常に意識する。  
●積極的に関わっていく。●できませんでした。  
●会議等への参加が少なかった。計画的に時間を作れるとよかった。  
●自分の意見を述べることができなかった。来年度は積極的に述べられるようにしていきたい。  
●言いたいことがあっても、うまく言葉にできなかったり、伝えられないことがあった。整理して話すようにしたい。

⇒職員会だけでなくクラスや係の打ち合わせなどの話し合いで、それぞれの意見をより交換し合うようにする。不明な点や疑問点については早めに明らかにするようにする。職員会で時間をかけて話し合う内容については、終礼で事前に知らせ、それぞれが自分の考えをもって職員会に臨むようにする。